

「アジア競技大会・アジアパラ競技大会を活用した 地域活性化ビジョン」ロードマップ

2025 年 3 月



Aichi-Nagoya 2026

はじめに

2026年に愛知・名古屋で「アジア競技大会・アジアパラ競技大会」が開催されます。アジア競技大会・アジアパラ競技大会は、アジアの45の国と地域が参加するアジア最大のスポーツの祭典です。愛知・名古屋でこれらの大会が開催されることにより、国内外からアスリートや観戦客など多くの人々が訪れるのはもちろんのこと、アジアのみならず世界から大きく注目されることとなります。

この大会を一過性のものとせず、公正・公平な大会運営を通じて、愛知全体のブランド力を高めるとともに、スポーツ振興や観光・産業振興、人材育成など地域活性化につなげていくことが必要と考え、本県が取り組むべき方向性を示すものとして、2019年3月に「アジア競技大会・アジアパラ競技大会を活用した地域活性化ビジョン」を策定（2023年3月改訂）しました。

また、幅広い分野の専門家の方の助言をいただくことで、時代のニーズに応えるとともに、県民・市民から支持される大会とするため、2022年11月に「アジア・アジアパラ競技大会に関する懇談会」を設置し、2024年3月には大会に付け加える新たな理念「アジアの子ども 未来のために」をご提示いただきました。

こうした中、大会まで残り1年半となり、大会の基本的な枠組も定まってきたことから、このたび、「アジア競技大会・アジアパラ競技大会を活用した地域活性化ビジョン」の実現に向けた取組について改めて整理し、県民の皆様に分かりやすくお示しするロードマップを策定しました。

引き続き、県民の皆様を始め、市町村や競技団体、経済団体、企業、教育機関、NPOなど様々な方々と連携・協働しながら、両大会を活用した地域活性化を図ってまいりたいと考えておりますので、一層の御理解・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

2025年3月



＜作成の趣旨＞

- アジア競技大会・アジアパラ競技大会の開催まで残り１年半となり、大会の基本的な枠組も定まってきたことから、両大会を契機に本県として取り組むべき地域活性化の方向性を示すものとして、2019年３月に策定（2023年３月改訂）した「アジア競技大会・アジアパラ競技大会を活用した地域活性化ビジョン」（以下「ビジョン」という。）に基づき、大会前、大会期間中、大会後に区分して各取組の工程を整理した。
- 本ロードマップの策定にあたっては、ビジョンで定める５つの目標の実現に向けて、ビジョン策定後の関連施策の進捗状況や、「アジア・アジアパラ競技大会に関する懇談会」からの提言、アジア競技大会・アジアパラ競技大会の開催概要、社会経済の変化等を踏まえ、大会を契機として実施すべき取組について、追加や見直しを行った。
- 既にビジョンに基づき実施している取組については、引き続き事業を実施しながら、大会開催の機を捉えてさらに発展し、事業効果を高めていけるよう実施計画を工夫している。

＜ロードマップの構成＞

ビジョンに定める ５つの目標	大会前 (2025 年度)	大会期間中 (2026 年度)	大会後 (2027 年度～2030 年度)
目標 1 スポーツで愛知を ブランディングする 【スポーツ・健康】	トップアスリートの 育成、大会に向けた 機運の醸成	指導者やサポート人材 の活躍、大会の情報発 信	新たなスポーツ大会の 招致、地域のスポーツ 振興
目標 2 多くの来訪者で賑わう 愛知をつくる 【観光・文化】	観光プロモーション やコンテンツの充実	大会来場者へ愛知の 魅力発信	大会による知名度 向上を活かした 誘客促進
目標 3 アジアにおける愛知の産業の 存在感を強める 【地域経済・産業】	Made in AICHI の ブランド力強化	大会来場者へ産業技術 や農林水産物の P R	アジア地域との交流促 進や販路拡大
目標 4 アジアと愛知の次世代 を育む 【人材育成・国際交流】	ボランティアの 募集・育成、異文化 理解の促進	ボランティアの活躍促 進、国際交流の促進	ボランティアの継続的 な活躍促進、国際交流 の活発化
目標 5 すべての人が活躍でき る愛知をつくる 【共生社会・ユニバーサルデザイン】	共生社会に向けた 啓発やユニバーサル デザインの推進	パラ大会を通じた障害 者に対する理解促進	パラスポーツの推進や 障害者の活躍促進

＜アジア競技大会・アジアパラ競技大会の概要＞

○第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）

アジア競技大会は、4年に1度開催され、オリンピックに次ぐ参加選手を誇るアジア最大のスポーツの祭典。

- ◆主催：アジア・オリンピック評議会（OCA）
- ◆大会期間：2026年9月19日（土）～10月4日（日）（16日間）
- ◆実施競技：41競技
- ◆参加国・地域：OCA加盟の45の国と地域
- ◆選手団（選手、チーム役員等）：最大15,000人

【開催意義】

- ・アジアのスポーツの発展や友好と平和の促進に貢献
- ・東京2020大会の開催によるスポーツへの関心の高まりを引き継ぐ、日本のスポーツ界の次なる大きな目標
- ・交流人口の拡大や国際競争力の強化など、愛知・名古屋はもとより、中部圏、さらには、日本全体の成長に貢献
- ・日本のセンターとしての愛知・名古屋のブランドを確立
- ・成長著しいアジア地域と愛知・名古屋及び中部圏、さらには日本とのより強固な連携の構築に寄与

○第5回アジアパラ競技大会（2026/愛知・名古屋）

アジアパラ競技大会は、4年に1度開催されるアジア地域のパラスポーツの総合競技大会。日本では初めての開催となる。

- ◆主催：アジアパラリンピック委員会（APC）
- ◆大会期間：2026年10月18日（日）～10月24日（土）（7日間）
- ◆実施競技：18競技
- ◆参加国・地域：APC加盟の45の国と地域
- ◆選手団（選手、チーム役員等）：3,600～4,000人

【開催意義】

- ・アジア競技大会と共通する開催意義に加え、愛知・名古屋が、日本、さらにはアジアの障害者スポーツをリードすることにより、障害への理解促進や、障害のある方の社会参加の促進の大きな役割を果たし、ひいては、多様性を尊重し合う共生社会の実現に貢献

目標 1 スポーツで愛知をブランディングする【スポーツ・健康】

1-1. トップアスリートの育成・輩出

<主な取組方向>

- 本県から多くのトップアスリートが輩出され、国際大会で多くの選手が活躍するとともに、引退後の活動等も見据えた環境づくりをめざす。
- 具体的には、トップアスリート・トップパラアスリートの試合見学等により、アカデミー生の意識の向上を図るとともに、アスリートの育成や大会運営をサポートする人材の確保、スポーツ医・科学サポートの充実に取り組んでいく。また、アスリートが競技引退後も経験を活かしたキャリアを形成できるよう支援していく。

<具体的な取組・施策と実施計画>

取組・施策		実施計画			所管局等
		大会前 (2025)	大会期間中 (2026)	大会後 (2027～2030)	
①あいちトップアスリートアカデミーの実施		○国際大会で活躍できる地元選手の発掘・育成	・トップアスリート・トップパラアスリートの試合見学等による意識の向上	・国際大会への出場に向けた取組の充実	スポーツ局
②競技力向上対策事業、選手強化事業の実施		○強化指定選手の認定・補助 ○競技団体が実施する強化合宿やスポーツアナリティクス※の導入等への支援		・国際大会への出場に向けた取組の充実	スポーツ局
③アスリートサポート事業の実施		○日本オリンピック委員会の「アスナビ※」等の就職支援事業への協力 ○キャリア形成に向けた支援			スポーツ局
④コーチ・トレーナー等のサポート人材の育成・確保	地域の指導者の確保	○連携大学（日本体育大学、中京大学、至学館大学、東海学園大学）、スポーツチーム等の指導者の確保	・大会を契機として指導者を目指す人材の発掘・育成		スポーツ局
	大会運営に係る資格取得の支援	○国際・上級審判員や公認クラシファイヤー※等の資格取得の支援	・大会における資格取得者の活躍支援	・資格取得者の継続的活躍の促進	スポーツ局
⑤トレーニング環境の充実		○競技団体におけるスポーツドクターやアスレチックトレーナー(AT)※の確保の支援	・大会におけるAT等の確保の支援	・競技団体とAT等とのマッチング支援	スポーツ局

※スポーツアナリティクス…スポーツに関するデータを収集・分析して、選手やチームのために活用すること。

※アスナビ…企業と現役トップアスリートをマッチングする日本オリンピック委員会（JOC）の就職支援制度。

※公認クラシファイヤー…障害の種類や程度に応じて、パラアスリートを競技クラスにカテゴリー分けするために必要な知識や技術を学び、資格を取得した者。

※アスレチックトレーナー…アスリートの健康管理、障害予防、スポーツ外傷、障害の応急処置、リハビリテーション及び体力トレーニング等を担当する者。



あいちトップアスリートアカデミー



健康管理や生活習慣の改善を支援するアプリ
「あいち健康プラス」

1-2. スポーツの振興

＜主な取組方向＞

- 誰もが気軽にスポーツを楽しむことができる機会づくりや場づくりに取り組み、県民が多様な形でスポーツに関わる環境づくりをめざす。
- 具体的には、健康づくりや学校での体力向上への取組等で、日常的なスポーツへの取組を促進するとともに、教育活動において必要な施設利用を確保した上で、学校体育施設を適切に開放することにより地域でスポーツ施設を利用しやすい環境づくりを進める。
- また、大会会場となっている施設については、大会後に開催実績を活かしたスポーツ大会の招致を図る等、施設の有効活用を進めていく。

＜具体的な取組・施策と実施計画＞

取組・施策		実施計画			所管局等
		大会前 (2025)	大会中 (2026)	大会後 (2027～2030)	
①地域のスポーツイベントの活性化	スポーツ大会関連情報の発信	○スポーツ大会の情報発信やスポーツ大会を活用した地域の活性化 ○アジア競技大会・アジアパラ競技大会の情報発信・機運醸成		大会開催実績を活かした情報発信、スポーツ大会の増加等による地域活性化	スポーツ局 アジア・アジアパラ競技大会推進局
	県民の主体的な健康づくりの促進	○健康管理や生活習慣の改善を支援するアプリ「あいち健康プラス」内での大会関連ウォーキングコースの設置検討	○健康管理や生活習慣の改善を支援するアプリ「あいち健康プラス」内での大会関連ウォーキングコースの設置	○アプリ内大会関連ウォーキングコースの運用・管理	保健医療局
	学校での体力向上の推進	○タグラグビー※等、楽しみながら運動できる活動の推進 ○大会記念デザインの体力章を作成の上、小学校4年生から中学校3年生の対象者に交付			教育委員会
	キッズ運動アカデミーの実施	○スポーツと遊びを融合した子ども向けプログラム「キッズ運動アカデミー※」試験的実施の周知	○大会開催によるスポーツの機運醸成に合わせた「キッズ運動アカデミー※」の試験的実施	○市町村（名古屋市を除く）児童館スタッフへの研修の実施	福祉局

取組・施策		実施計画			所管局等
		大会前 (2025)	大会中 (2026)	大会後 (2027～2030)	
②スポーツ関連施設の有効活用の促進	県立学校施設の開放	○県立学校の体育施設の一般開放			教育委員会
	大会開催施設の活用	○愛知国際アリーナ、武道館、射撃場における大会開催準備・施設改修	○競技会場・練習会場としての活用	○愛知国際アリーナ等における大会開催実績を活かした国際・国内大会での活用推進	スポーツ局 アジア・アジアパラ 競技大会推進局
		○海陽ヨットハーバーにおける大会開催準備・施設改修	○競技会場・練習会場としての活用	○大会を契機として整備された施設を活用したセーリングやヨット競技の開催	都市・交通局 アジア・アジアパラ 競技大会推進局
		○国際展示場における大会開催準備	○競技会場・練習会場としての活用		観光コンベンション局 アジア・アジアパラ 競技大会推進局
③地域に密着した特定競技の普及・支援の推進		○競技会場の所在市町村と連携した同競技の普及・支援	○会場所在自治体と連携した大会及び同競技のPR	○会場所在自治体と連携した同競技の普及や大会招致	スポーツ局 アジア・アジアパラ 競技大会推進局
④地元チーム・アスリート応援事業の実施		○フリーマガジン・Webを活用した大会出場選手の紹介や地元スポーツ情報の発信		・大会開催実績の発信による地元スポーツ応援の機運醸成	スポーツ局

※ラグビー…性別や年齢を問わず誰でも楽しめるように、危険が伴うタックルを排除し、代わりにボールを持っている相手の腰のタグ(飾りヒモ)を取ることで動きを止めるルールを採用したラグビー。

※キッズ運動アカデミー…子ども達の運動状況を考えて、スポーツと自由な遊びを融合して開発した新しい身体を動かす遊びのプログラム。市町村(名古屋市を除く)児童館スタッフへの研修を実施し、子ども達の運動能力の向上、身体的、情緒的、社会的な成長のサポートをする。



フリーマガジン「aispo!」



©2022 Aichi International Arena

画像はイメージです。デザインなどは変更になる場合があります。

愛知国際アリーナ

1-3. スポーツ大会等の招致

<主な取組方向>

- スポーツ大会を活用した地域活性化を図るため、大会を契機として国際レベル、全国レベル等の様々なスポーツ大会や合宿の招致をめざす。
- 具体的には、開催都市として大会の円滑な開催に向けた支援を行い、運営ノウハウの蓄積や県民の機運醸成に取り組んでいくとともに、大会後は大会の開催実績をPRしながら、国際大会、事前合宿や国内外のチームのトレーニングキャンプ等を、競技団体、市町村と連携しながら、県内各地に招致していく。

＜具体的な取組・施策と実施計画＞

取組・施策		実施計画			所管局等
		大会前 (2025)	大会中 (2026)	大会後 (2027～2030)	
① 国際的大会、国際親善試合の招致・育成	開催都市としての大会支援	○テストイベントの実施支援及び地域の魅力発信	○大会開催支援	大会開催実績を活かした国際的大会等の招致・開催	スポーツ局 アジア・アジアパラ競技大会推進局
	国際的大会等の招致・開催	○国際的大会等の招致・開催 ・ISU グランプリファイナル国際フィギュアスケート競技大会の開催支援等 ○大会運営ノウハウの蓄積と県民の機運醸成			スポーツ局
② 全国大会の招致・開催		○スポーツ振興やトップアスリート育成・輩出に向けた全国大会の招致・開催		・大会開催実績を活かした全国大会の招致・開催	スポーツ局
③ トレーニングキャンプ等の誘致		○合宿等の招致に向けた情報の収集・発信	・市町村と連携した大会参加選手等の合宿受入促進	・大会開催実績を活かした合宿等の招致	スポーツ局 アジア・アジアパラ競技大会推進局

1-4. アジアのスポーツ振興への貢献

＜主な取組方向＞

- アジア各国と本県とのスポーツ交流を進めるとともに、スポーツに関するノウハウの提供・共有を行うことで、アジア全体のスポーツ振興への貢献をめざす。
- 具体的には、ポストスポーツ・フォー・トゥモロー推進事業の活用等により、アジアのアスリートの受入促進に取り組む。また、本大会後に大会を開催する国や関係機関に対し、招致、開催準備段階から運営段階に至るまでの過程やノウハウの記録を提供していく。

＜具体的な取組・施策と実施計画＞

取組・施策		実施計画			所管局等
		大会前 (2025)	大会中 (2026)	大会後 (2027～2030)	
① アジアのアスリートの受入		○「スポーツ・フォー・トゥモロー※」等の機会を活かしたアスリートの受入促進	・大会を活かしたアスリートの受入促進		アジア・アジアパラ競技大会推進局
② アスリート・指導者等によるアジアとの交流		○「スポーツ・フォー・トゥモロー※」等の機会を活かした交流促進	・大会を活かした交流促進		アジア・アジアパラ競技大会推進局
③ アジア競技大会・アジアパラ競技大会の運営ノウハウの提供		○大会組織委員会と連携した過程やノウハウの記録		次の大会開催都市や関係機関等における運営ノウハウの活用	アジア・アジアパラ競技大会推進局

※スポーツ・フォー・トゥモロー…スポーツ庁により 2014 年から 2021 年の 8 年間実施された、スポーツを通じた国際交流・協力を通じて、開発途上国をはじめとする世界のあらゆる世代の人々にスポーツの価値やオリンピック・パラリンピック・ムーブメントを広げることを目指した取組。

目標2 多くの来訪者で賑わう愛知をつくる【観光・文化】

2-1. 愛知を中心とした観光交流拠点の形成

<主な取組方向>

- 広域的な観光交流拠点である本県の強みを生かしながら、来県時に食を始めとした愛知の魅力を発信することで、国内外から多くの観光客が訪れる地域づくりをめざす。
- 具体的には、本県が全国一の生産を誇る花きによる会場等の装飾やアジア地域の旅行会社やメディアに対する観光プロモーションを行うとともに、なごやめしを始めとした食文化や本県の農林水産物等の魅力を発信していく。
- 大会後は、大会開催による本県の知名度向上を活かして、アジア地域からの誘客促進や県産農林水産物等の輸出促進・インバウンド需要の取り込みを進めていく。

<具体的な取組・施策と実施計画>

取組・施策		実施計画			所管局等
		大会前 (2025)	大会中 (2026)	大会後 (2027～2030)	
①大会 PR と併せた愛知の魅力発信	花の王国あいちの PR	○会場等を装飾する花材の選定・準備の支援 ○大会に向けた花きの PR	○会場等を装飾する花きの調達支援 ○大会を通じた花きの PR	○大会により向上した知名度を活かした花きの PR	農業水産局 アジア・アジアパラ競技大会推進局
		○首都圏でのフラワーバレンタインプロモーションと連携した大会PR ○アジア地域等への輸出拡大に向けた産地支援			農業水産局
	大会の機会を捉えた観光プロモーション	○放送事業者・報道関係者等へのエキスカーション ○OTA (Online Travel Agent) ※と連携したプロモーション	○アジア地域の旅行会社、メディア、一般旅行者等へのプロモーション ○アスリートや大会来場者のショートトリップの促進		観光コンベンション局
	大会の機会を捉えた MICE の誘致	○愛知・名古屋 MICE 推進協議会による MICE の誘致	・大会による知名度向上を活かした MICE の誘致		観光コンベンション局
②アジア地域からの来訪者向けのツアー造成	ツアーやショートトリップによる県内観光促進	○海外旅行業者と県内事業者との商談会開催 ○国内ランドオペレーター※へのプロモーション ○外国人旅行者向け体験コンテンツの創出・プロモーション支援	○大会による知名度向上を活かしたプロモーション ・大会来場者をターゲットにした情報発信	○アジア地域からの旅行者ニーズに合ったツアーの造成支援 ○2か年の実績を活かした外国人旅行者向け体験コンテンツのプロモーション支援を継続実施	観光コンベンション局

取組・施策		実施計画			所管局等
		大会前 (2025)	大会中 (2026)	大会後 (2027～2030)	
③食文化の魅力の発信	なごやめし、発酵食文化のPR	○ハラル、ビーガン、ベジタリアン等へ対応したメニューの開発 ○ハラル等への対応店舗のマップ化 ○多言語サイトによる魅力発信	○大会を通じた食文化の体験 ○ハラル等への対応店舗の利用促進	○大会来訪者の反応を踏まえたメニュー開発支援 ○大会による知名度向上を活かした魅力発信	観光コンベンション局
	食育の推進	○日本型食生活や本県の食文化、農林水産物等の情報発信			農業水産局
	県産農林水産物（果物、水産物、畜産物）の魅力発信	○県産農林水産物の知名度向上に向けた情報発信		○大会による知名度向上を活かした輸出促進	農業水産局
	大会応援メニューの提供	○アイリス愛知での県産食材やアジアにちなんだ料理の提供			人事局
④広域観光の推進	東海地区への外国人旅行者の誘客促進	○東海地区の県や県内市町等と連携した外国人旅行者に対する観光ルートへのPR	・大会による知名度向上を活かした誘客促進		観光コンベンション局
	ツーリズム EXPO ジャパンへの出展	○「ツーリズム EXPO ジャパン 2025 愛知・中部北陸」に出展し、大会PRを実施	○「ツーリズム EXPO ジャパン」に出展し、大会PRを実施		観光コンベンション局 アジア・アジアパラ競技大会推進局

※OTA（Online Travel Agent）…インターネット上で取引を行う旅行会社。

※ランドオペレーター…旅行会社の依頼を受け、旅行先のホテルやレストラン、ガイドやバス・鉄道などの手配・予約を専門に行う会社のこと。



MICE見本市への出展



スポーツイベントにおける愛知の花の装飾

2-2. スポーツ・文化等のコンテンツの充実

＜主な取組方向＞

- スポーツ・文化等の多様なコンテンツを活かしながら本県魅力を発信することにより、アジア地域を中心とした海外や、スポーツに関心の薄い方々の関心も集め、本県への誘客促進をめざす。
- 具体的には、サイクリングやeスポーツを活用したスポーツツーリズムの定着に取り組むとともに、大会と併せて文化芸術イベントを実施する。
- また、産業観光や歴史観光等について、大会来場者をターゲットにした情報発信や誘客促進を行っていく。

<具体的な取組・施策と実施計画>

取組・施策		実施計画			所管局等
		大会前 (2025)	大会中 (2026)	大会後 (2027～2030)	
①スポーツツールの推進	スポーツ大会関連情報の発信	○スポーツイベント等の情報発信 ○アジア競技大会・アジアパラ競技大会の情報発信・機運醸成		・大会開催実績を活用したイベント等の情報発信	スポーツ局 アジア・アジアパラ競技大会推進局
	スポーツイベント等による誘客促進・地域のPR	○東三河へのサイクリストの誘客、広域周遊ルートでのPR ○東三河でのeスポーツイベントの開催 ○自転車活用推進計画の推進		○市町村へ開催ノウハウ等の横展開 ○現行計画の成果を踏まえた次期計画(2027年度策定予定)の推進	総務局 建設局 アジア・アジアパラ競技大会推進局
	文化芸術イベントの展開	○歴史、文化芸術、産業等様々な魅力を発信する文化プログラムの実施 ○国際芸術祭と連携したPR ○あいちアール・ブリュットと連携したPR	○芸術祭関連事業と連携したPR	市町村を始めとした各事業主体による交流の継続・促進	アジア・アジアパラ競技大会推進局 県民文化局 福祉局
③産業観光・歴史観光の推進		○愛知の公式観光サイト「Aichi Now」及び多言語特設サイト「AMAZING AICHI Japan」による情報発信 ○市町村、観光協会、企業等と連携した産業観光、武将観光、発酵食文化、山車まつり等の魅力発信	・大会来場者をターゲットにした情報発信 ・大会来場者をターゲットにした情報発信	・アジア地域をターゲットにした情報発信 ・大会による知名度向上を活かした国内外への情報発信	県民文化局 観光コンベンション局

2-3. 受入環境の整備、おもてなしの充実

<主な取組方向>

- 大会の開催に向けて医療・救護体制や輸送体制を構築するとともに、ユニバーサルツーリズムの推進により、誰もが快適に滞在できる愛知をめざす。
- 具体的には、インターネット利用環境の提供や多言語対応、スマートフォンアプリを活用した外国人や視覚障害者に向けた情報発信の充実に取り組んでいく。
- また、ハラル対応の促進やムスリムツーリスト向けマップの充実等、異なる文化的・宗教的背景を持つ方に対して適切に配慮する取組を進める。

＜具体的な取組・施策と実施計画＞

取組・施策		実施計画			所管局等
		大会前 (2025)	大会中 (2026)	大会後 (2027～2030)	
①来訪者の利便性向上	無料公衆無線LANの提供	○大会会場（愛知国際アリーナ、国際展示場）における無料公衆無線LANサービスの提供			スポーツ局 観光コンベンション局
	医療・救護体制の構築	○「あいち救急医療ガイド」による外国語で診療可能な医療機関の情報提供	・大会来場者に向けた情報提供	・大会での経験を踏まえた利便性の向上検討	保健医療局
		○診療所や医療スタッフの確保への協力		大会によって得られたノウハウを他の大規模イベントにおいて活用	防災安全局 保健医療局 アジア・アジアパラ競技大会推進局
		○救急車の確保への協力			
	観光 Web サイトでの情報発信	○Web サイトや SNS における多言語での災害情報の発信	・大会来場者を含む訪日外国人への情報提供	・大会での経験を踏まえた利便性の向上検討	観光コンベンション局
	輸送ルートの検討	○大会関係者及び観客の通行ルートの策定支援		大会のノウハウを他の大規模イベントに活用	アジア・アジアパラ競技大会推進局 警察本部
②案内機能・多言語対応の充実	多言語交通案内の充実	○交通事業者に対し英語や中国語等の多言語案内やピクトグラム表示の整備の働きかけ			都市・交通局
	観光施設の多言語化	○市町村等が実施する観光案内板・誘導標識等の多言語化（英語や中国語等）への補助		大会を契機に整備された受入環境を活用した誘客促進	観光コンベンション局
	多言語コールセンターの運営	○多言語コールセンターでの観光事業者を対象とした通訳・翻訳サービスの提供			観光コンベンション局
	スマートフォンアプリによる多言語情報の提供	○スマートフォンアプリ「Uni-Voice」※による多言語や視覚障害者向け情報発信	・大会来場者を含む訪日外国人等への情報提供		防災安全局
	多文化共生の情報発信	○多文化共生の情報と合わせ、多言語での大会関連情報の発信		大会を通じて充実した文化交流や外国人県民の暮らしに役立つ情報の発信	県民文化局
③多様な文化・宗教への配慮	ムスリム旅行者の誘客促進	○SNS を活用した啓発キャンペーン等事業者等のハラル対応の促進	○県内のハラル対応スポットを掲載したムスリムツーリスト向けマップの充実	○大会を契機に整備された受入環境を活用したムスリム旅行者の誘客	観光コンベンション局

※スマートフォンアプリ「Uni-Voice」…目の不自由な方が容易に情報取得できるよう、コードにスマートフォンをかざすことで、印刷物の内容を読み上げるアプリ。ねんきん定期便、マイナンバー通知カードといった通知物の読み上げから、「耳で聴くハザードマップ」の提供など、様々な場面で活用されている。

目標3 アジアにおける愛知の産業の存在感を強める【地域経済・産業】

3-1. アジアやスポーツ課題に対応する技術開発の促進

<主な取組方向>

- 本県のものづくり等の蓄積を活かし、アジアの課題解決やスポーツ振興等に貢献するビジネスの展開や技術開発、販路の拡大をめざす。
- 具体的には、民間事業者と連携してサーキュラーエコノミーモデル事業化プロジェクトやスポーツイノベーションプロジェクトを推進し、取組の成果を大会を通じてPRすることにより、スポーツの成長産業化やスポーツを通じた地域の活性化を図る。

<具体的な取組・施策と実施計画>

取組・施策		実施計画			所管局等
		大会前 (2025)	大会中 (2026)	大会後 (2027～2030)	
①アジアの課題解決に貢献するビジネス展開の促進	企業の国際ビジネス展開の支援	○県内企業の販路拡大支援、国際ビジネスに関する相談対応等の実施		大会による知名度向上を活かした県内企業のアジア地域への進出支援及び企業誘致の促進	経済産業局
	企業が持つ技術の活用や販路拡大支援	○最先端技術を含む製造業等の企業誘致			企業庁
	サーキュラーエコノミー※推進モデルの展開	○プロジェクト参画の事業者の取組支援	○大会を通じた取組のPR	○大会による知名度向上を活かした取組のPR	環境局
②スポーツとの連携による産業の新たな展開	企業等の機運醸成	○「MOVE ON 2026」ロゴマーク※を活用した企業等の取組支援	大会を契機とした地元企業や団体、個人による大会の機運醸成		アジア・アジアパラ競技大会推進局
	あいちスポーツイノベーションプロジェクトの推進	○あいちスポーツイノベーションコンソーシアム AiSIA の運営 ○民間事業者からスポーツの価値を高める提案や、スポーツの持つ価値を活用して地域課題の解決を図る提案を募集 ○スポーツをテーマとした、テック企業やスタートアップとのマッチングを実施	○事業成果の発信 ○STATION Ai や大会会場を活用した事業実施	大会を起爆剤として、スポーツの成長産業化及びスポーツを通じた地域活性化を促進	経済産業局 スポーツ局

※サーキュラーエコノミー…あらゆる経済活動において、製品やサービスの設計段階から廃棄物の発生や汚染を出さないようデザインするとともに生産から利用の段階では製品と資源の価値を可能な限り長く保全・維持したまま循環させることで、資源の投入量と廃棄物の発生量を最小化する経済システム。

※「MOVE ON 2026」ロゴマーク…アジア競技大会・アジアパラ競技大会を契機とした地元企業や団体、個人による大会の機運醸成や地域の活性化につながる取組を応援するため、愛知県と名古屋市が制作した独自のロゴマーク。

<コラム①> 「MOVE ON 2026」ロゴマーク



MOVE ON 2026

愛知県と名古屋市では、大会を契機とした地元企業や団体、個人による大会の機運醸成や地域の活性化につながる取組を応援するため、独自のロゴマーク「MOVE ON 2026」を制作しました。

「MOVE ON（前進する）」をキーワードに、Aichiの「A」とNagoyaの「N」をモチーフとしており、大きく腕を振って走るシルエットをデザイン化することで、地域が一丸となって次のステージや未来に向かって前進する姿を表現しています。

今後、地元の皆様に積極的に活用していただくことで、地域が一体となって大会の開催に向けた更なる機運醸成及び地域の活性化を図ります。

3-2. 「Made in AICHI」のブランド力強化と販路拡大

<主な取組方向>

- 大会や大会に関連する様々な機会を、本県の先進的な産業技術や農林水産物の魅力を強く PR するショーケースの舞台として活用し、「Made in AICHI」のブランド力強化やアジアへの販路拡大をめざす。
- 具体的には、先端デジタル技術や花き、農林水産物等を大会において積極的に活用して PR するとともに、産業展示会においてアジア企業が一堂に出展する「アジアパビリオン」の設置や県内企業との商談、見本市への出展支援により、アジア企業との交流を促進する。

<具体的な取組・施策と実施計画>

取組・施策		実施計画			所管局等
		大会前 (2025)	大会中 (2026)	大会後 (2027～2030)	
①大会の各場面を使った「Made in AICHI」のショーケース化	先端デジタル技術の実証実験	○大会関係企業や施設等とテック企業等とのマッチング・実証実験の実施	○実証実験の成果を踏まえた会場における先端技術の導入支援	○大会での導入支援実績を活かした他の大規模事業やプロジェクト等での実証実験	経済産業局
	花きの活用	○会場等を装飾する花材の選定・準備の支援 ○大会に向けた花きのPR	○会場等を装飾する花きの調達支援 ○大会を通じた花きのPR	○大会により向上した知名度を活かした花きのPR	農業水産局 アジア・アジアパラ競技大会推進局
		○首都圏でのフラワーバレンタインプロモーションと連携した大会PR ○アジア地域等への輸出拡大に向けた産地支援			農業水産局
	県産農林水産物の活用	○県産農林水産物の知名度向上に向けた情報発信		○大会による知名度向上を活かした輸出促進	農業水産局

取組・施策		実施計画			所管局等
		大会前 (2025)	大会中 (2026)	大会後 (2027～2030)	
②アジアにおける「Made in AICHI」の販路拡大	アジア企業との交流促進	○AXIA EXPO※に「アジアパビリオン」を設置し、アジア企業の出展を促進	→		経済産業局
	農林水産物の輸出促進に向けた商談会の開催	○アジア圏バイヤーを招いたオンライン商談会の開催	→	○大会による知名度向上を活かしたアジア地域への販路開拓支援	農業水産局
	県産木材の需要拡大	○各種イベントにおける県産木材のPR	→		農林基盤局
	企業の国際ビジネス展開の支援	○県内企業の販路拡大支援、国際ビジネスに関する相談対応等の実施 ○県内企業向けビジネス支援セミナー開催及び海外で開催される見本市等に出展する本県企業への出展支援	→		経済産業局
③県内企業のアジア展開の促進	愛知県サポートデスクによる活動支援	○愛知県サポートデスクによる活動支援（ベトナム、江蘇省、インド及びインドネシア）	・企業同士のネットワークづくりの推進	大会による知名度向上を活かした県内企業のアジア地域への進出支援	経済産業局
	海外産業情報センターによる活動支援	○海外産業情報センターによる活動支援（中国・上海、タイ・バンコク）	・現地における愛知の産業集積のPR ・大会を契機とした県内中小企業の海外事業活動のPR		経済産業局
	金融機関・商社と連携した海外展開支援	○産業振興に関する協定を締結している金融機関・商社と連携した海外展開支援			経済産業局
	企業の国際ビジネス展開の支援	○県内企業の販路拡大支援、国際ビジネスに関する相談対応等の実施 ○県内企業向けビジネス支援セミナー開催及び海外で開催される見本市等に出展する本県企業への出展支援			経済産業局

※AXIA EXPO…「愛知発 カーボンニュートラル社会の実現へ」というテーマのもと、日本の産業集積地である愛知県でカーボンニュートラル社会・次世代型スマートシティの実現に資する技術・製品を一堂に集めた、産業展示会。「AXIA EXPO 2025」では、アジア大会・アジアパラ競技大会のプレ・産業版交流事業として、アジア諸国の企業等が出展する「アジアパビリオン」を設置予定。



AXIA EXPO 2024



ウッドワンダーランド 2023

3-3. アジアからの人材の活躍促進

<主な取組方向>

- アジア地域を中心とした世界各国から人材の受入が拡大するとともに、受け入れた人材が地域に定着して活躍することで、愛知の存在感を高めていくことをめざす。
- 具体的には、留学生地域定着イベント等において大会のPRを実施するとともに、外国人による起業準備活動計画への支援を実施する。
- また、外国人児童生徒の日本語指導等を実施する語学相談員について、新たにベトナム語に対応する相談員の配置を検討する等、外国人県民の教育の充実や安心して暮らせる環境づくりを進めていく。

<具体的な取組・施策と実施計画>

取組・施策		実施計画			所管局等
		大会前 (2025)	大会中 (2026)	大会後 (2027～2030)	
①外国人留学生の地域での活躍促進	留学生の地域定着・活躍促進	○留学生地域定着促進イベント及び留学生総合支援サイトを活用した大会PR		○大会による知名度向上を活かした留学生の地域定着の促進	政策企画局
②外国人県民の地域定着、キャリアアップの促進	語学相談員の充実	○フィリピン語、スペイン語等の語学相談員の配置	・アジア地域との交流増加に合わせ新たにベトナム語対応の語学相談員配置の検討		教育委員会
	日本語教育適応学級担当教員の加配	○配置基準に基づき、日本語教育が必要な児童生徒への指導を行う担当教員を配置			教育委員会
	「あいち地域日本語教育推進センター」の活用	○外国人に伝わる「やさしい日本語」の普及促進	・大会関係者や観光協会への「やさしい日本語」の普及促進		県民文化局
	「あいち多文化共生センター」における相談・情報提供の実施	○来訪する外国人県民に対する多言語での大会関連情報の発信		大会を契機に整備された受入環境の情報発信	県民文化局
③外国人材の受入促進による産業競争力の向上	海外大学との連携の推進	○中国3大学(清華大学・上海交通大学・浙江大学)との交流事業(学生・研究者の派遣受入れ等)の推進		海外大学等との連携・協力による本県の知名度向上や人材交流の促進	政策企画局
	外国人による起業準備活動の促進	○ウェブページによる情報提供、起業準備活動計画策定に関する支援		○大会による知名度向上や受入環境整備を活かしたアジア地域の外国人による起業準備活動の促進	経済産業局
	「外国人材受入サポートセンター(仮称)」における相談・情報提供の実施	○センターにおける外国人材の受入環境整備等に関する相談対応や情報発信により、企業の外国人材受入れを支援	・大会を契機とした外国人材確保支援の強化		労働局

目標 4 アジアと愛知の次世代を育む【人材育成・国際交流】

4-1. ボランティアの育成

<主な取組方向>

- 大会におけるボランティア活動の機会を通じて、スポーツボランティアの育成を図るとともに、ボランティアのやりがいや楽しさに気づいてもらうことで、ボランティア文化の定着をめざす。
- 具体的には、大会での活躍に向けて知識や技術を習得するプログラムを実施するとともに、語学や福祉、スポーツ医・科学等の専門知識を有するボランティア人材の確保に努める。
- 大会期間中は、大会でのボランティア経験を通じた知識や技術の習得によりボランティア人材の育成を図るとともに、大会終了後も継続的に活躍できるような場をつくっていく。

<具体的な取組・施策と実施計画>

取組・施策		実施計画			所管局等
		大会前 (2025)	大会中 (2026)	大会後 (2027～2030)	
①ボランティアの定着化の促進	ボランティアの継続的な活動の促進	○大会ボランティアの募集 ○スポーツボランティアの魅力発信	○大会におけるボランティアの活躍 ・大会におけるボランティアの活躍を発信	○継続的な活動に向けた活躍の場づくり	スポーツ局 アジア・アジアパラ競技大会推進局
②ボランティア人材の育成	ボランティアの知識や技術の習得	○ボランティアの知識や技術を習得するプログラムの実施	○大会におけるボランティア経験を通じた知識や技術の習得	他のスポーツ大会における育成ノウハウの活用	アジア・アジアパラ競技大会推進局
③大会を支えるボランティアの確保・育成	大会運営の知識や技術の習得	○大会運営に向けた研修等の実施 ○大会運営の核となるボランティアリーダーの育成 ○語学や福祉、スポーツ医・科学等の専門知識を有するボランティア人材の確保	○大会運営を通じたボランティアの育成 ○大会におけるボランティアリーダーの活躍 ○大会における専門知識を持つボランティアの活躍	大会を通して構築されたボランティア体制を他のスポーツ大会で活用	アジア・アジアパラ競技大会推進局

<コラム②> 第20回アジア競技大会マスコット「ホノホン」

アスリートたちの心に宿る熱い想いが「炎」となり愛知・名古屋の守り神であるシャチホコとひとつになって誕生しました。

「ホノホン」という名前は、炎の語源とされる「火の穂（ほのほ）」、これは火が高く立ち上がってメラメラと燃える様子が穂（稲穂の“穂”）のようだからというところから来ていますが、そこから親しみやすさも込めて「ホノホン」と名付けられました。

ホノホンは、「アジア競技大会」の顔として、いろいろなところで大会を盛り上げていきます。



4-2. アジアとの交流の活発化

＜主な取組方向＞

- 大会の開催に合わせて、アジア地域を中心とした海外との交流を促進することにより、アジア地域との相互理解の深まりや交流の活発化をめざす。
- 具体的には、大会を契機として県内市町村がアジア地域との交流事業を実施するアジア・フレンドシップ事業や、高等学校の生徒が大会の準備や運営に関わる機会の創出に取り組んでいく。また、アジア地域との友好提携交流事業の実施等により、国際交流を促進する。

＜具体的な取組・施策と実施計画＞

取組・施策		実施計画			所管局等
		大会前 (2025)	大会中 (2026)	大会後 (2027～2030)	
①地域におけるアジア地域との交流・友好の促進	アジア・フレンドシップ推進事業	○県内市町村を主体とした大会を契機とする交流事業の実施	・大会関係者や観客へのおもてなし等を通じた交流の実施	大会を契機としたアジア地域との交流の継続・促進	アジア・アジアパラ競技大会推進局
	国際関係学科による交流・友好の推進（高等学校）	○国際関係学科の生徒が大会の準備や運営に協力する活動の推進			教育委員会
	運動系部活動による交流・友好の推進（高等学校）	○運動系部活動の生徒が大会の運営に協力する活動の推進			教育委員会
	文化系部活動による交流・友好の推進（高等学校）	○文化系部活動の生徒が大会の式典や会場演出における文化発表等に協力する活動の推進			教育委員会
②アジアの外国人県民とのネットワークの強化		○外国人県民が母語で情報交換している SNS による母国への大会 PR ○国際交流イベントにおける大会 PR ○アジア競技大会・アジアパラ競技大会の多言語パンフレットの配布	・大会を通じた外国人県民と地域住民との交流促進 ・アジアの国を紹介する国際交流イベントへの大会 PR ブース出展	大会を契機としたスポーツ分野での交流の継続・促進	政策企画局 県民文化局 アジア・アジアパラ競技大会推進局
③多様な分野によるアジア各国との交流促進		○友好提携先等の高校生に対する大会 PR（広東省・バンコク都・京畿道、江蘇省）		大会を契機とした提携地域との交流の継続・促進	政策企画局



国際交流イベント（ベトナムフェスティバル）



中国・広東省との交流

4-3. グローバル人材の育成

<主な取組方向>

- 大会を契機として、国際理解教育をさらに促進することにより、世界で活躍するグローバル人材の育成をめざす。
- 具体的には、SDGs 子ども・ユースフェア（仮称）を開催し、次世代を担う子供たちがアジアの環境問題について学ぶ機会を提供する。
- また、学校教育や県立大学において、アジア地域を中心とした世界各国の言語・文化の学習活動や、留学生との交流を促進することにより、グローバル教育を推進していく。

<具体的な取組・施策と実施計画>

取組・施策		実施計画			所管局等
		大会前 (2025)	大会中 (2026)	大会後 (2027～2030)	
①国際理解教育の推進	アジアの環境問題の学習	○「SDGs 子ども・ユースフェア（仮称）」の開催		大会を契機としたグローバルな環境問題への意識向上	環境局
	留学生との交流（高等学校）	○アジア地域からの留学生と、大会をテーマとした交流の実施			教育委員会
	海外修学旅行の実施、姉妹校提携	○アジア地域への修学旅行の実施			教育委員会
		○アジア地域の姉妹校と、大会をテーマとした交流の実施			
	アジア競技大会・アジアパラ競技大会を学ぶ学習教材の活用	○小中高校で大会やアジア地域の文化等を学ぶ学習教材の活用	・大会の観戦	大会を契機としたアジア地域の文化等の多様性を学ぶ教育の推進	アジア・アジアパラ競技大会推進局 教育委員会
②国際人材を目指したキャリア教育	アジア・フレンドシップ推進事業を活用したアジア地域に関する学習の実施	○小中学校でアジア地域に関する学習や異文化理解学習の実施			アジア・アジアパラ競技大会推進局 教育委員会
	県立大学におけるグローバル教育の推進	○外国語による教育の充実		グローバルな視点を持って国際社会で活躍できる人材の育成	県民文化局
	英語教育の推進	○「イングリッシュキャンプ in あいち」や「あいちリーディングスクール」において、大会に参加する国・地域をテーマに英語での言語活動やプレゼンテーションの実施			教育委員会

取組・施策		実施計画			所管局等
		大会前 (2025)	大会中 (2026)	大会後 (2027～2030)	
③交換留学、 海外との人材交流の促進	県立大学における海外大学との交流	○アジア地域を含む海外協定大学との交流促進		県立大学のグローバル化推進	県民文化局
	アジア・フレンドシップ推進事業を活用した交流事業の実施	○アジア・フレンドシップ推進事業を活用したアジア地域との交流につながる事業の実施		大会を契機としたアジア地域との交流の継続・促進	アジア・アジアパラ競技大会推進局

<コラム③> 第5回アジアパラ競技大会マスコット「ウズミン」



モノづくり王国・愛知を支える「水」が愛知・名古屋の守り神であるシャチホコとひとつになって誕生しました。

「ウズミン」という名前は、「水」から発想を広げて「渦（うず）」と「泉（いずみ）」という言葉に基づいています。ここには、パラアスリートたちの熱い思いが「渦」となって愛知・名古屋に集まり、そこで生まれた感動が「泉」のように湧き上がって、アジア中に広がっていく大会となしてほしいという願いが込められています。

水の精霊ウズミンは、アジア大会マスコットの火の精霊「ホノホン」と一緒になって大会を盛り上げていきます。

目標5 すべての人が活躍できる愛知をつくる【共生社会・ユニバーサルデザイン】

5-1. 共生社会の実現

<主な取組方向>

- 大会を訪れる様々なバックグラウンドや価値観を持つ人々を迎え入れるにあたり、障害の有無や国籍、文化等の違いを理解し、互いに認め合う社会を実現するとともに、高齢者や障害者等、誰もが活躍できる環境づくりをめざす。
- 具体的には、大会を契機として、特別支援学校との共同学習の推進、あいちアール・ブリュット障害者アーツ展の開催といった多様性の尊重に向けた取組を進めていく。
- また、高齢者や障害者等の多様な主体におけるスポーツの促進を通じて、生きがいや社会参加の機会を創出する。

<具体的な取組・施策と実施計画>

取組・施策		実施計画			所管局等
		大会前 (2025)	大会中 (2026)	大会後 (2027～2030)	
①人権教育・人権啓発の推進		○人権啓発イベントやユニバーサル事業※の実施 ・他の市町村等と連携したボッチャ教室等による人権啓発 ○ポスター等啓発資材による人権啓発の推進			県民文化局
②インクルーシブな地域づくり	特別支援学校との交流及び共同学習の推進	○パラスポーツを題材とした特別支援学校と近隣幼小中高の交流及び共同学習の推進	・共同学習の更なる推進		教育委員会
	あいちアール・ブリュットの推進	○あいちアール・ブリュット障害者アーツ展の開催	・大会を題材とした障害者アートの企画展示		福祉局
	障害の特性に応じたコミュニケーション手段の利用促進	○会話が困難な方等を支援するコミュニケーション支援アプリの運用 ○手話通訳者等意思疎通支援者の養成・派遣	・アプリの更なる利用促進		福祉局
	アジア競技大会・アジアパラ競技大会を学ぶ学習教材の活用	○小中高校で大会やアジア地域の文化等を学ぶ学習教材の活用	・大会の観戦	大会を契機としたアジア地域の文化等の多様性を学ぶ教育の推進	アジア・アジアパラ競技大会推進局 教育委員会
	パラスポーツを題材とした学習教材の活用	○国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE※」の活用			
	パラアスリート学校訪問	○パラアスリートが県内の学校を訪問し、出前講座を実施			アジア・アジアパラ競技大会推進局

取組・施策		実施計画			所管局等
		大会前 (2025)	大会中 (2026)	大会後 (2027～2030)	
③誰もが参画・活躍できる環境づくり	高齢者の生きがいと健康づくり	○スポーツを通じた高齢者の生きがいづくり	・大会を契機とした高齢者でも取り組みやすいスポーツの紹介	・大会を契機としたスポーツへの取組促進	福祉局
	障害者の勤労意欲の向上	○勤労身体障害者を対象としたスポーツ大会の開催	・大会を契機とした更なる振興		労働局
	障害者雇用の促進	○障害者雇用促進トップセミナーにおける共生社会実現に向けた事例紹介	・大会を活用した事例の紹介		労働局

※（人権）ユニバーサル事業…障害の有無や国籍、性的指向などの違いを理解し、自然に受け入れ、互いに認め合う共生社会、いわゆる（人権）ユニバーサル社会の実現に向けた啓発活動を行う事業。

※国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」…パラリンピックを題材に、共生社会の実現に向けて「気づき、考え、行動を起こす」力を育むための ICT 教材。

５－２．ユニバーサルデザイン環境の整備・充実

＜主な取組方向＞

- 大会を契機として、ハード、ソフトの両面において、誰もが安心して利用できるユニバーサルデザインの推進をめざす。
- 具体的には、大会に向けて、誰もが安心して利用できるよう、競技会場や宿泊施設等のバリアフリー化を推進するとともに、大会会場がある市町村の競技会場周辺またはアクセスルート上の駅周辺のバリアフリー＆おもてなしマップを活用することでユニバーサルデザインの取組を推進していく。
- 大会後は、大会での取組を含めたユニバーサルデザインの事例を広く県内自治体等に展開することにより、県内各地へのユニバーサルデザインの波及を図っていく。

＜具体的な取組・施策と実施計画＞

取組・施策		実施計画			所管局等
		大会前 (2025)	大会中 (2026)	大会後 (2027～2030)	
①競技会場等におけるユニバーサルデザインの推進	○公共交通のバリアフリー化 ○デジタル技術の活用等による、競技会場等における多言語化対応の推進			誰もが安心して快適に過ごせるまちづくりの推進	都市・交通局
	○競技会場等におけるユニバーサルデザイン及びバリアフリー化の推進				アジア・アジアパラ競技大会推進局 警察本部
	○宿泊施設のバリアフリー化の推進				アジア・アジアパラ競技大会推進局
	○競技施設を所有する市町村の施設改修の支援				アジア・アジアパラ競技大会推進局

取組・施策		実施計画			所管局等
		大会前 (2025)	大会中 (2026)	大会後 (2027～2030)	
②おもてなしによるユニバーサルデザインの充実	バリアフリー&おもてなしマップの活用	○バリアフリー&おもてなしマップの活用	○大会におけるバリアフリー&おもてなしマップの活用	市町村におけるバリアフリー&おもてなしマップの継続活用	アジア・アジアパラ競技大会推進局
	スマートフォンアプリによる多言語情報の提供	○スマートフォンアプリ「Uni-Voice」による多言語や視覚障害者向け情報発信	・大会来場者を含む訪日外国人等への情報提供		防災安全局
③県内各地へのユニバーサルデザインの展開	大会へのアクセシビリティの向上	○大会のアクセシビリティ・ガイドラインを踏まえた施設や交通環境等の整備		県内各地や他地域への事例展開	都市・交通局 アジア・アジアパラ競技大会推進局
	カラーユニバーサルデザインの普及啓発	○カラーユニバーサルデザイン※を啓発するキャラバン隊の派遣	・競技会場となる市町村への派遣	県内各地への普及促進	福祉局
	「人にやさしい街づくり」の推進	○県内各地での「人にやさしい街づくり」をテーマとしたセミナーや出前講座の開催			建築局

※カラーユニバーサルデザイン…色弱者だけでなく、一般的な色覚の方も含め、誰に対してもきちんと正しい情報が伝わるように、色の使い方などにあらかじめ配慮すること。

５－３．パラスポーツの推進

<主な取組方向>

- 大会の機運醸成を図りながら、パラスポーツの普及・啓発に取り組むとともに、障害の有無にかかわらず、誰もがパラスポーツとともに「する」「みる」「ささえる」環境づくりをめざす。
- 具体的には、障害者スポーツ指導員の養成に取り組むとともに、障害者スポーツを理解し、応援する「あいちパラスポーツサポーター」の取組を推進し、大会においてボランティアリーダーの役割を担うことができるよう支援していく。
- また、大会を題材とした学習教材を活用し、県内の児童生徒が、アジア競技大会・アジアパラ競技大会への理解を深めるとともに、アジア各国・地域の文化等の多様性、障害に対する理解の促進等を図っていく。

<具体的な取組・施策と実施計画>

取組・施策		実施計画			所管局等
		大会前 (2025)	大会中 (2026)	大会後 (2027～2030)	
①パラスポーツの普及に向けた環境づくり		○障害者スポーツ指導員※の養成、パラスポーツ技術研修、総合型地域スポーツクラブ※でのパラスポーツの実施への支援	・大会における障害者スポーツ指導員の活躍支援		スポーツ局
②パラスポーツに関わる機会の創出	障害者スポーツの普及促進	○障害者スポーツ体験イベントの開催		・大会で活躍したパラアスリート等のイベントへの参加	スポーツ局

取組・施策		実施計画			所管局等
		大会前 (2025)	大会中 (2026)	大会後 (2027～2030)	
②パラスポーツに関わる 機会の創出	パラスポーツを 「ささえる」人 材育成	○あいちパラスポーツサ ポーターの育成	→ ・大会でのボランティア としての活躍支援	→ ・他の大会等におけるボ ランティアとしての活 躍支援	スポーツ局
	パラスポーツの 競技人口拡大	○パラスポーツ未経験者 を対象とした講演会や 実技指導の実施	→ ・パラアスリートによる 指導等	→	
③スポーツを通じた理 解・交流の 促進	アジア競技大 会・アジアパラ 競技大会を学ぶ 学習教材の活用	○小中高校で大会やアジ ア地域の文化等を学ぶ 学習教材の活用	→ ・大会の観戦	大会を契機とした アジア地域の文化 等の多様性を学ぶ 教育の推進	アジア・アジアパラ 競技大会推進局 教育委員会
	パラスポーツを 題材とした学習 教材の活用	○国際パラリンピック委 員会公認教材「I'm POSSIBLE」の活用	→		
	パラアスリート 学校訪問	○パラアスリートが県内 の学校を訪問し、出前 講座を実施	→		アジア・アジアパラ 競技大会推進局

※障害者スポーツ指導員…スポーツに参加する障害者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援する人のこと。

※総合型地域スポーツクラブ…子どもから高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人が（多種目）、初心者からトップレベルの競技者まで、それぞれの志向・レベルなどに合わせて（多志向）参加でき、地域の住民が主体的に、自主財源（クラブ会員の受益者負担）で運営しているスポーツクラブのこと。